

# 蝶ヶ岳 2015年7月18日～20日 リーダー:伊藤 松雄



① 蝶ヶ岳山頂の15人(20日06:45) ↑

## 蝶ヶ岳山行について リーダー:伊藤 松雄

岡Tさんから蝶ヶ岳山行記が届いていることや、私が旅に出掛けていたことで、小倉さんから「SMSで送れる程度でも一言頂けないでしょうか」と要請がありましたので、一言申し上げます。

まず始めに、参加者全員が無事に帰宅できたことに安堵をしています。

しかし、

- ① ノロノロ台風の影響で、山行を中止をするかの否かでお騒がせをしたこと。
- ② 土砂降りの雨の中を歩いたこと。
- ③ 蚊の大群やヌカミ、全く眺望のない山道を歩いたこと。
- ④ 槍・穂が見えなかったこと。
- ⑤ 下山をするときに、メンバーの間があきすぎたこと。
- ⑥ バスの到着が遅く、春日部止まりになったこと等々。

そのために、「もう二度とあんな山には行きたくない」「こんな山を歩かせた会長をうらむ」などの声を耳にして、もう二度と高い山のリーダーはやるものか!!、と胸に叩きこみました。

② 雨の中、徳本峠小屋へ向かってスタート。(18日13:21) ↓



ところが下山をしてから、数人の方から感謝のお言葉などをいただき、少し胸が和らぎ初めています。

また山行1日前に、とある役員の方から「キャンセル料がかかっても命にはかえられない」と、中止のアドバイスをいただきながら強行したことに深く反省をしています。

そして、高い山や熟練度がある山に登るときは、メンバーの構成を考える必要があるな…、と考えさせられた、そんな(私にとっては最後の…)蝶ヶ岳山行でした。

④ 徳本峠小屋での夕食。(18日17:57) ↓



③ 上高地、河童橋前にて。(18日12:09) ↓





## 7月山行・出発5分前。サブリーダー豊島 泰

3時55分。空気は夜の匂い。あたりはまだ闇の中。先程まで出発準備の沢山のライトでゴった返す小屋の出入口だったが、メンバー全員すでに外に集合済みで、真っ暗な玄関に僕一人。

「早くしろ〜」梅ちゃんがドア越しに呼びに来るが、まだ右足のスパッツを装着中。10年以上使用しているヘタったスパッツはジッパーの噛み合わせが悪く、上手く噛んでも、引上げが大変で動かないこともしばしば。だが、履けた・・・でも、次は左足。

「先に行くぞ〜」と藤井さん。LEDライトを口に咥えての作業が辛くなってくる。なかなか光が当たらない。ケチらずにヘッドランプを購入すべきであったか？

やった、噛んだ!・・・その瞬間、小屋の灯りが点灯する。時刻は4時を

### ⑤ 下山途中の豊島さん(20日08:02)→

まわりタイムアウト。スパッツは?と見ると、右と左を逆に着けている・・・(汗)

今回の山行。体力的にはそれなりに鍛えたつもりで臨んだが上述のヘタレ・スパッツや安物ライト。あるいは防水機能も無いに等しい破れシューズなどなどに足をひっぱられた。たとえ劣化した装備であっても、それをカバーする経験と技量がきつとあるはず・・・というのは、とんだ思い上がりであったが反省しています。引き比べて、百名山ホルダーのKさん。なんとスマートで軽やかな立ち振る舞いであったか。装備も技量も経験もさすがで、ここは謙虚に見習いたいと思った。



### ⑥ 登山道に入る前のチェック(18日13:04) ↓



### ⑦ 黒沢沿いの登山道を登るメンバー(18日14:35) ↓



### ⑧ 徳本峠小屋に到着(18日15:29) ↓



### ⑨ 就寝前の飲み会(18日17:25) ↓



### ↓⑩ 大滝山へ出発の前(19日06:32) 標高2134mの峠に建つ徳本峠小屋は2011年、国の有形文化財に指定



### ⑪ 大滝山見台の檜の上にて(19日09:02) ↓



## 「蝶ヶ岳」山行に参加して 戸邊茂雄

7月18日(土)〜21日(月)、蝶ヶ岳に登ってきました。蝶ヶ岳(ちょうがけ)は、飛騨山脈(北アルプス)にある標高2,677mの山です。常念山脈の稜線上、常念岳の南にあり、山体すべてが長野県に属します。5月末から6月にかけて、この地味な山稜の一部に黒い蝶が舞うような雪形が現れることから山名がつけられています。頂上の南には二重山稜があり、蝶ノ池、カモシカの池、長堀(ながかべ)尾根の妖精ノ池などがあります。お花畑とともに登山者にとっての魅力は、蝶ヶ岳から蝶ヶ岳ヒュッテにかけての稜線から見る穂高連峰と槍ヶ岳の大展望です。

出発の前日、大型で遅くて勢力の強い台風11号が四国に上陸して北上し、多くの被害をもたらして日本海に抜けて行きました。その後を追うようにしての山行となりました。

朝4時に起きて、せんげん台5:38発の電車です。春日部駅で仲間と合流して春日部5:57発の電車に乗り6:18に大宮駅に着きました。大宮駅で今回の参加者15名(男9人、女6人)が全員揃い、大宮6:42発の新幹線ががやき501号に乗り込みました。まずは駅の売店で買った缶ビールで乾杯です。長野までは約1時間です。7:39に着きました。長野からはバスです。8:15発のせ

### ↓⑫ ゴジラ退治した? 戸邊さん(20日10:16)



せらぎ号で上高地に向かいました。途中、梓川SAで休憩(9:30〜40)をとり11:00に上高地バスターミナルに到着しました。朝起きた時から雨は降ってなかったのにこちらに来たら雨です。台風は日本海に去ってしまっても山の天気はまだ回復してないようです。計画では明神でお昼にする予定でしたが、雨なので先にお昼を食べることになり、バスターミナルの待合室でお昼を食べ、雨具を装備して12時丁度に出発となりました。

雨で増水した梓川に沿って歩き出すと直ぐにかっぱ橋です。かっぱ橋で記念写真を撮り、雨の中を歩いて行きます。この辺は観光客や登山客で大勢人がおられます。1時間弱歩いて12:55に明神館に着きました。10分ほどトイレ休憩をしてから5分ほど歩き13:10に分岐に差し掛かりました。ここから徳本峠小屋に向かいますが、もうここからは人と出会いません。出会ったのはガマガエルだけでした。雨の中を沢沿いに登って行きます。景色の眺望もなく、時々花を愛でる程度で約2時間登り、15:20に徳本峠小屋に着きました。写真で見ていた通りの古びた山小屋と隣接して建てられた新しい山小屋がありました。山小屋から歩いて45秒という所に展望

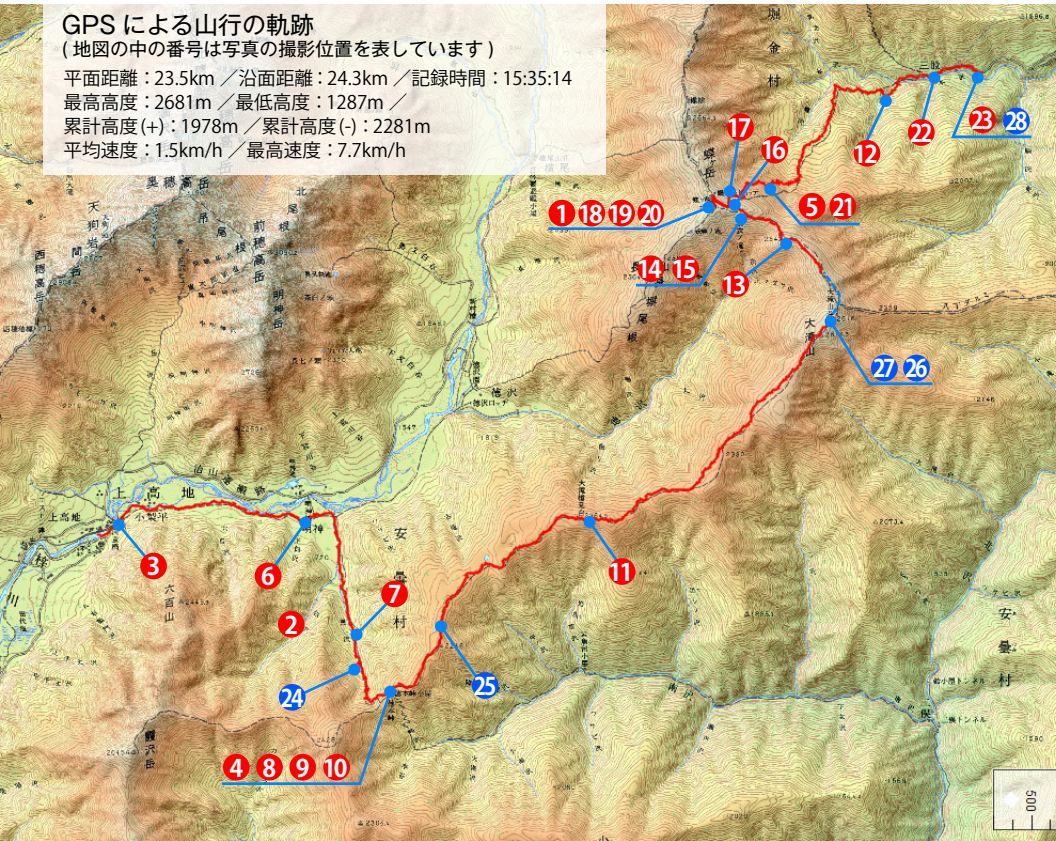
次ページに続く ▶



# GPS による山行の軌跡

(地図の中の番号は写真の撮影位置を表しています)

平面距離: 23.5km / 沿面距離: 24.3km / 記録時間: 15:35:14  
 最高高度: 2681m / 最低高度: 1287m /  
 累計高度(+): 1978m / 累計高度(-): 2281m  
 平均速度: 1.5km/h / 最高速度: 7.7km/h



⑬ 朝もやの中の神秘的な水辺。(20日04:49) ↑



⑭ 岳頂上の残雪(20日05:33) ↑



⑮ お花畑の中を頂上を目指す(20日05:36) ↑

台がありますが、雨ですので直ぐに小屋に入りました。雨具を吊るしたりした後は、することがないという酒を飲むだけです。山小屋で¥500のビール(350ml)を買って飲み、2日間で飲むつもりで持って行った日本酒とウイスキーも全部飲んでしまいました。夕食を食べて20時消灯で床に入りましたが熟睡はできませんでした。ほぼ一晩中雨も降っておりまして。

2日目の7月19日は5時頃に起床して、小屋から45秒の展望台に行ってみました。山の姿を拝むことはできませんでした。5:30から朝食で6:30に予定通りの出発です。2日目の天気は曇りです。林の中だけで眺望の無い中村新道を歩いて大滝山に登り、大滝山荘を目指します。2日目は私を含めた6人の先発隊と残り9人の後発隊に分かれての出発となりました。先発隊は先に行ってお花畑を見に行く予定でしたが結局は雨でダメでした。同じ景色の中を歩いて7:40に明神見晴に着きましたが、眺めはありません。また同じ景色の中を歩いて8:50に大滝槍見台に着きました。槍見台に上がって眺めましたが山の姿は見えません。楽しみといえば足元に沢山咲いていたゴゼンタチバナや所々で見かけたキヌガサソウなどの花を愛でるくらいです。更にまた同じ景色のなかを2時間ほど歩いて大滝山の山頂に近づいてきたら、上りが急になってきて右側に斜面が現れました。そしてその斜面はちょっとしたお花畑です。ユリやキスゲ、ハクサンフウロ、ミヤマキンボウゲなどが斜面に散らばって咲いておりました。しかし道幅が狭く、片側が崖ですから花に近づいて写真を撮ることは危険でしたのでほどほどに致しました。そしてその上に出たら大滝山南峰(標高2,614.5m)の標識がありました。11:55着です。そこから5分歩いた先が大滝山荘でした。大滝山頂に着いた時から雨が降り出し、最後の5分だけ雨に降られてしまいましたが予定通り12:00丁度大滝山荘に到着しました。これから1km先のお花畑を見に行くために先発してきましたが、結局のところ雨が降ってきたので取り止めて小屋の中で休んでいた間もなく後発隊が到着して一緒にお昼となりました。お昼を食べた後は少し昼寝をしてからまた酒を飲んで夕食を食べて早めに床につきました。

3日目の7月20日は4時出発予定なので3時に起床して準備を整えました。今日こそは晴れを期待しましたが、朝起きた時は時折星の姿も見えたのですが曇っておりました。ヘッドランプで足元を照らしながら、予定通り4時丁度に暗闇の中を出発です。30分くらい歩いたら明るくなり始め、徐々に花も見られるようになってきました。そしてやがて待ちに待

た太陽の姿も雲の間から見られました。雲はあるものの朝日が差してきて5:45に蝶ヶ岳ヒュッテに着きました。目の前の常

念岳は見えるのですが遠くの山々はまだ雲に邪魔されて見えません。ヒュッテに注文してあった朝食のお弁当をもらい、外で食べることになりました。1時間くらい朝食休憩をとり、目の前の蝶ヶ岳の山頂(標高2,677m)に登りました。ゆっくり休憩をとったので徐々に雲も切れてきて、槍ヶ岳も眺められるようになってきました。写真を撮って7:00出発です。予定より30分遅い出発となりましたが、なんとか晴れてくれてめでたしめでたしです。ここからは一気に下りです。やっと晴れて眺望も良く、花も沢山咲いている蝶ヶ岳新道をゆっくり歩きたかったがそうはいきません。これまで登山者にほとんど出会わなかったのにここからは登ってくる人とも何度もすれ違います。それでも花や景色を堪能し、写真も撮って満足でした。8:40に最初の水場に着きました。9:15に「まめうち平」で10分ほど休憩し、10:25に最後の水場「力水」を通過し、10:45に三股登山口に到着しました。そして迎えのレンタカーが待つ三股駐車場に11:00に到着して今回の登山が無事に終了です。山の上は涼しかったのに、ものすごい暑さで現実に戻った感じがしました。

この後は3日間の汗を流しに温泉です。11:45~13:45までの2時間、温泉(ほりで一ゆ~四季の郷)で汗を流し、冷たい生ビールを飲んで、安曇野の蕎麦を食べて休憩しました。身体もさっぱりし、お腹も満たされたが、バスの中で飲むためのビールとつまみをスーパーで仕入れて15:08に安曇野ICから長野自動車道へ入りました。バスに乗って缶ビール(500ml)を1本飲んだら睡魔が襲ってきました。しばらくは全員ずかにおやすみです。しばらくするとまた元気が出てきて、今度は煩いほど賑やかになりました。特にK谷さんとU沢さんの声が一際大きく響いておりました。15:40に更埴JCTから上信越道に入り、更に18:00に藤岡JCTから関越道へと入ってきて東松山で事故渋滞という情報が入り、手前の嵐山小川ICで高速を降りて春日部に向かいました。3連休の最後の日ですので道路が渋滞し、春日部には21:10の到着となりました。レンタカーを22:00までに大宮の営業所に戻さなければならぬ、今回は春日部終点という事になり、せんげん台組は車でせんげん台まで帰り、ちょっとだけ反省会をして22:10の帰宅でした。

今回は台風の直後の山行で天候は今一つでしたが、最後の一番良い所で天気が良くなり幸いでした。歴史ある徳本峠小屋は風情があり、料理も美味しく、小屋のスタッフも良く最高の山小屋でした。蝶ヶ岳の山頂では天候が回復してきて3年前に登った槍ヶ岳も拝めました。台風で出発前大変気苦労されたリーダーの藤会長お疲れ様でした。そして有難うございました。また楽しい山行をご一緒していただいた皆様ありがとうございました。



⑰ 大滝山頂上の先発組。(19日11:54) ↑



↓18 蝶ヶ岳ヒュッテでの朝食 (20日 06:01)



↓19 蝶ヶ岳頂上北アルプスの眺望を楽しむ (20日 06:47)



↓20 雲の合間からやっと覗いた槍ヶ岳 (20日 06:52)



↓23 ゴール!!!! (20日 10:55)



↓21 下山途中、常念岳がよく見えていた (20日 08:04)



↓22 三股登山口に到着 20日 10:46)



↑クルマユリ 24



↑ギンリュウソウ 25



↑イワカガミ 26



↑ニリンソウの群生 27



↑ウツボグサ 28

## 2015年8月山行の案内

### 刈込湖・切込湖 最高地点 1,741m (栃木県日光市)

奥日光の深い森に抱かれた2つの湖と見晴らしのよい山王峠越えの穴場コース。高山植物の花も咲き、亜高山帯の針葉樹と山地帯のミズナラやブナなどの境界線付近を歩くので、樹相の変化に富んだコースとしても楽しむことができます。

【日時】8月16日(日)

【集合】せんげん台5時45分 春日部6時00分

【持ち物】ハイキング支度・昼食・飲料水・雨具・入浴セット

【コース】湯元温泉駐車場→小峠→刈込湖→切込湖→湊沼→山王見晴らし→光徳牧場駐車場  
＜総歩行距離 8.0km コースタイム 3時間10分＞

【入浴】中禅寺金谷ホテル 800円

【申込み】キャンセルが出たため、一名の申込みを受け付けます。

【リーダー】市川克也

※日帰り入浴後は会長の超オススメのそば屋に寄る予定なので、昼食は軽めでも可。  
※温泉ではバスタオルとフェイスタオルを無料で貸してくれます。